

厚生労働科学研究費補助金 (がん対策推進総合研究事業)  
(分担研究報告書)  
がん相談支援事業の周知活動の評価に関する研究

研究分担者 萩原 明人 国立循環器病研究センター 客員部長

研究要旨

多面的事業評価手法(MAUT)を用いて、国立病院機構九州がんセンターの病院内外で行われたがん相談支援事業の周知活動について定量的な評価を行った。その結果、院外での周知活動に比べ、院内での周知活動の方が評価得点が高かった。

A. 研究目的

がん相談支援事業を巡っては患者、市民、医師、看護師、相談支援員、患者家族、病院管理者、等の複数の利害関係者が存在し、これら利害関係者の支援事業に対するスタンスは異なっている。現在、がん相談支援事業の周知に関する多様な取り組みが院内と院外で行われている。しかし、院内と院外の取り組みのうち、どちらが有効なのか明らかになっていない。そこで、本研究では多面的事業評価手法(Multi-Attribute Utility Technology, MAUT)を用いて、がん相談支援事業を定量的に評価した。

B. 研究方法

(1) 対象

国立病院機構九州がんセンター(福岡県福岡市南区)で行われているがん相談支援の周知活動。特に、本研究では病院外での周知活動と病院内での周知活動を評価対象とした。

(2) 調査期間

2018年12月～2019年1月。

(4) MAUT

事業の評価を以下の観点から多面的かつ定量的に行う手法である。(1) 事業には立場の異なる複数の利害関係者が存在する。

(2) 評価は可能な限り複数の事業を比較する形で行う。(3) 事業には複数のゴールがあり各ゴールの重要性は同等ではない。

(4) 判断は数値的なデータに基づいて行うのが最もよい。(5) 事業の評価は事業の決定に関わる者によって行われるべきである。

(5) 利害関係者

本研究で取り上げた利害関係者(n=36)以下のとおりである。

- ・ 医師 (n=5)
- ・ 看護師 (n=5)
- ・ 相談支援センター職員 (n=7)
- ・ 病院首脳陣 (n=6)
- ・ 病院経理・総務部門 (n=6)
- ・ 社会保険労務士 (n=7)

(倫理面への配慮)

研究の目的、方法、個人が特定されないことを口頭および文書で説明し、年齢、性別、

氏名等の個人情報に関する事項を一切含まない調査票を用いた。更に、国立病院機構九州がんセンターで倫理審査を受け研究実施の承認を得た。

#### C. 研究結果

がん相談支援事業の周知活動のゴールを① 相談の場があると感じる人が増える、② 患者が孤立しない、③ (家族や患者が) がん罹患後の生活の見通しがつく、④ (患者が) 納得して治療を選択できる、⑤ (患者や家族と) 医療者とのコミュニケーションがうまくいく、⑥ (家族や患者が) 十分な説明、必要な情報が得られる、⑦ (家族や患者が) 社会の支えが感じられる、⑧ (家族や患者を支える) 地域のネットワークが構築される、の10項目に設定した。定量的評価の結果、本研究で取り上げた2種類の評価対象事業のうち、「院内でのがん相談支援事業の周知活動」の評価得点は85.41、「院外でのがん相談支援事業の周知活動」の評価得点は76.49であった。

#### D. 考察

MAUTを用いた事業評価の結果、「院内でのがん相談支援事業」の周知活動の効用値のほうが高かった(85.41 vs. 76.49)。各利害関係者による目標達成率の評価においても、全項目において、「院内でのがん相談支援事業」のほうが高かった。利害関係者毎の感度分析でも「院内でのがん相談支援事業」の効用値のほうが効用値が高かった。効用値、感度分析で大きな差が出なかった原因として、利害関係が院内の医療者のみを対象としたためと考えられる。

#### E. 結論

2種類のがん相談支援事業の周知活動のうち、「院外でのがん相談支援事業」に比べ、「院内でのがん相談支援事業」の周知活動の効用値のほうが高かった。

#### F. 健康危険情報

特になし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

該当なし

##### 2. 学会発表

高山 智子、井上 洋士、八巻 知香子、清水 奈緒美、森田 智視、萩原 明人、藤 也寸志. 患者中心のコミュニケーション評価項目の信頼性および妥当性の検討. ～がん相談支援センター利用者を対象に～. 第11回日本ヘルスコミュニケーション学会 学術集会 プログラム・抄録集、P102

[http://healthcommunication.jp/syouroku/shouroku2019\\_all.pdf](http://healthcommunication.jp/syouroku/shouroku2019_all.pdf)

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

##### 1. 特許取得 2. 実用新案登録 3. その他

該当なし